

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

# ふろたん通信

2019年3月12日

広報センター

No. 29



正月から雨が少なく寒い日が続いた日本も、ようやく春の陽気になりました。  
ミャンマーは4月13～16日が水かけ祭り、17日にミャンマー歴の新年を迎えます。

## 日比谷公園の「水かけ祭り」と芝増上寺の「ミャンマー祭り」

日本在住のミャンマーの人たちが中心になって日比谷公園で行ってきた「水かけ祭り」、伝統芸能を紹介するステージの傍にミャンマー料理の屋台などが軒を連ね毎年賑わいます。日比谷公園の代表する春の行事となって、今年**4月7日の「ミャンマーフェス(ダジャン・水かけ祭り)2019」で28回目です。**

UR ワンゲルの40周年記念行事でビクトリア山登山を行ったのが、2013年3月、その年の11月に最初の芝増上寺でのミャンマー祭りが開催されました。2014年6月にふろたん工房設立、10月の「ミャンマー祭り2014」からミャンマー料理の「びるまの豎琴」が店出、ミャンマーコーヒーの「ほれやあれ」も加わった「ミャンマー祭り2015」・「ミャンマー祭り2016」には、すっかり10・11月の恒例行事として定着し、ふろたん工房メンバーも毎年必ず参加し「ふろたん通信」に報告を載せてきました。2017年が中止となり翌年に行われた「ミャンマー祭り2018」は梅雨が明けた炎天下の2日間になってバテ気味だった光景を通信26号で報告しています。今年の**「ミャンマー祭り2019」は5月25・26日、日本でのミャンマーのお祭りが、今年は4月と5月続いての春の行事になりました！**



この写真は2013年11月17日の最初の「ミャンマー祭り」の時に、増上寺の石段の下に並べられた傘を写したものです。傘に張られたミャンマーの子供たちの明るい笑顔が印象的でした。

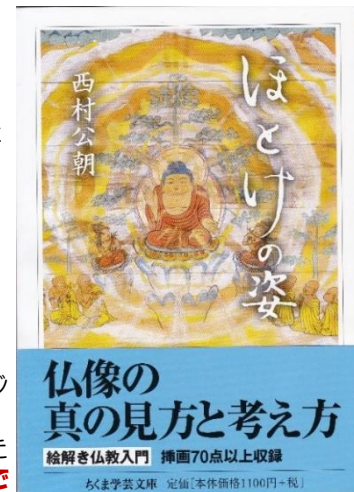
## ◆西村公朝作「ほとけの姿」改訂版

2015年8月の第3回インタビューは「天空の山と祈りの造形」というタイトルで大成浩・栄子ご夫妻にご登場いただき、栄子さんからはお父上の生誕100年の年に出版された本「**祈りの造形 評伝・西村公朝の時空を歩く**」の話を伺いました。

2018年5月のふろたん通信では、公朝作品を吹田市立博物館に寄贈し4月21～6月3日に開催された収蔵記念特別展「西村公朝芸術家の素顔」の会場での講演の様子などを報告しました。

そして今年2月、ちくま学芸文庫から出版された本「ほとけの姿」改訂版が送られてきました。最終ページには「本書は1990年10月毎日新聞社より刊行されたものに、著者が遺した朱入本を元に加筆修正を施したものである」と書かれています。「**今まで書いた本の中で**

**英語に翻訳するとしたらどれがいい？」2000年春にお父上に尋ねた栄子さんの一言から始まった改訂版の発行、朱入本を遺して3年後に亡くなられた公朝さん、「ほとけの姿」改訂版の表紙の絵と題字は孫の大成拓ご夫妻の作、親子三代での出版に歴史と家族の温かさを感じます。いつの日か英語版が実現出来たら、その次はぜひミャンマー語版も…！**  
**絵解き仏教入門書、近くの本屋さんで手にとってご覧ください！**



## ◆「スケッチ散歩普及会」スタート記念ミニセミナー

ふろたん通信 NO.27 でグループ団体賛助会員制度によるプロジェクトチームの結成についてお伝えし、前号の通信NO.28にはチームのスタート迄もう暫くお待ちくださいと書きました。

第1号プロジェクトチームが愈々スタートします。チーム名は「スケッチ散歩普及会」、チームリーダーはふろたん工房設立前の2014年2月に発刊した「フロンティアまちづくり読本」にビルマの縦軸構想図を描き、翌3月遠征の第2次ビクトリア登山隊がナマタ

国立公園事務所に届けるために作成したミャンマー語併記の「公園の登山道」の表紙にカンペシ村の少年と飯能の中学生が並んで本を読んでいるイラストを描いた竹川清和さんです。**第1号チームスタート記念イベントとしてミニセミナーを企画しました。**

会場はライブなど色々なイベントを定期的に行っている**高円寺のカフェと雑貨の店「ほれやあれ」、別添の案内チラシをご覧ください、どうぞ気軽にお立ち寄りください！**



**2019年度総会は、4月16日(火)18:00～ URリンケージ9F会議室にて開催です。**